

まちづくりミーティング開催結果概要

11 住み継がれる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



開催テーマ

桐生祇園屋台の後世への継承について

参加者

桐生祇園祭保存会 11名

桐生市長

傍聴者 3名

報道機関 4名

日時:令和7年12月16日(火)午後6時30分~午後7時25分

場所:桐生鉾座

1 開会

2 あいさつ

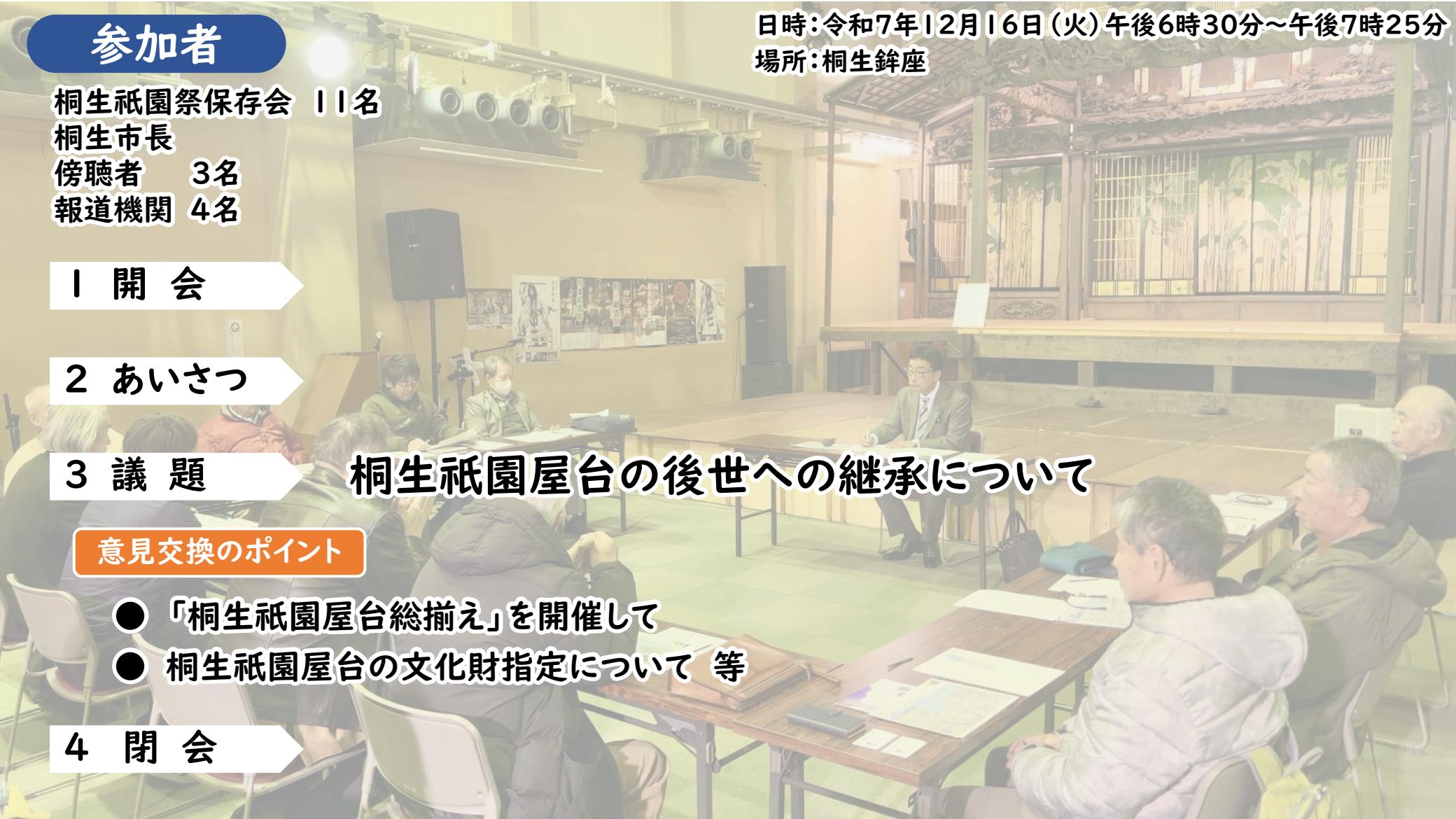
3 議題

桐生祇園屋台の後世への継承について

意見交換のポイント

- 「桐生祇園屋台総揃え」を開催して
- 桐生祇園屋台の文化財指定について 等

4 閉会



(市長)

本日は開催テーマを「桐生祇園屋台の後世への継承について」とし、皆さんと意見交換を行い、「共感」「共創」によるまちづくりを創造してまいりたい。

意見交換のポイント

- 「桐生祇園屋台総揃え」を開催して
- 桐生祇園屋台の文化財指定について等

とさせていただいた。

まずは「桐生祇園屋台総揃え」を開催して感じたことについて、皆さんの感想を聞かせていただきたい。

(意見)

屋台総揃えについて、まちなみ交流館の場所を借りて盛りだにできて大変感謝している。また、市外の方からも感激したということで、保存会に寄附をいただいたということからも、それだけ多くの方が感銘を受けられたのだと思う。保存会としては、一年半前から準備をしてきてその苦労が報われ、開催できて本当に良かったと思う。



「桐生祇園屋台総揃え」を開催して





(意見)
保存会や各町会の関係者が
一つにまとまり、何度もミーティングを重ねてきたので、
一人一人の思い入れも強く、
開催を実現できたのだと思う。この素晴らしい取組を後
世へつなげていきたい。

(意見)
今後もこのように屋台が
揃つて見せることができると
よい。

(意見)
屋台総揃えの3日間で一万人という多くの方に来場いた
だき大盛況だったが、屋台の
イベントでもっと小学生や中
学生が演者として参加してい
ただければ、若い方にもより
興味を持つていただけたのではないかと思う。

「桐生祇園屋台総揃え」を開催して

(意見)
屋台総揃えを開催できたこ
とは良かったが、屋台に傷ん
でいるところもあり、今後の
展示や保存が心配であるた
め、屋台の修復等について支
援をしていただけたありが
たい。

(意見)
史上初めて屋台6台を同時
展示し、令和の世の中に実現
できて本当に感激している。
今後は、これを後世に残す
ことが我々の使命だと思って
いる。

(意見)
屋台総揃えが無事に成功し
感謝する。屋台総揃えの期間
中、この桐生鉢座では一日約
700人、3日間で2千人を
超える来場者となり、まち
か交流館では一万人以上がな
らしの屋台で桐生の歴史文
化の象徴として、織物業で繁
栄した頃の桐生を見せてい
ただいた」と喜びの声もいただ
いた。

また、桐生鉢座で演じた十
日町市の保存会の方々から
もこのような素晴らしい舞台
で演じられたことに感激され
ていた。

(意見)

今回の屋台総揃えの開催は10年來の念願だった。今回、とび職の方々が40日・50日と大変な努力をしていただき初めての経験をしていただいたが、屋台を組み立てる技術や設備などについて、果たして後世に伝えていけるかということが一番心配だった。

この屋台については、関東地方だけでなく、おそらく東日本でも類のない規模のもので、建築当時の彫刻装飾など全て揃っているのは稀にみる造物である。これを後世にしっかりと残していくという中で、関係資料の収集については、個人的に行うものではなく、行政が率先して行なうことが相応しいと思うため、各町会にある資料や古文書などの文献があれば教育委員会で集中的に集め、整理していただきたい。

(意見)

屋台総揃えが開催できたことは良かったが、屋台一基を組み立てるのに100人工を要し、250万円から300万円の組立費用がかかるといわれているため、今後、各町会が単独で屋台を組み立てるることは困難であり、今回のような総揃えも最後にならないようにと思っている。

文化財指定については10年前の祇園祭の反省会の時に市へ打診したが、その後は特段動きがなく今日に至つては、屋台会館の建設や文化財指定期についてお願いしたい。

(意見)

本町5丁目では、2014年に3年ぶりに祇園屋台を展示し、それからはもう展示することはないとと思っていたが、1年前から会議を重ね、屋台総揃えでまたお披露目することができた。

せっかく組み立てたものをすぐ解体してしまうのではもったいないという声もあたが、様々な問題もあり困難であることを伝え、これを後世につなげるためには、屋台をそのまま格納できる屋台会館があると理想であるということを町会で話し合っている。

「桐生祇園屋台総揃え」を開催して





(意見)

屋台総揃え開催については、一年半前から検討委員会、そして実行委員会と会議を重ねるうちに、増子会長がもう後戻りはできないという思いを宣言し、絶対開催するんだという強い意気込みを発信してくれたことで動き始めることができたと思う。

屋台の総揃え開催中は、天候も不安で台風でも来たら彫刻が壊れてしまうのではないか、屋台が風で倒されてしまうのではないかと心配していたところ、3日目に突然大雨が降つて対応に追われたこともあり、屋台撤去まで本当に気がかりだったが、それぐらいたところ、貴重な屋台で桐生市民の宝なのだということを改めて感じた。来場者の方々の笑顔が忘れない。

「桐生祇園屋台総揃え」を開催して

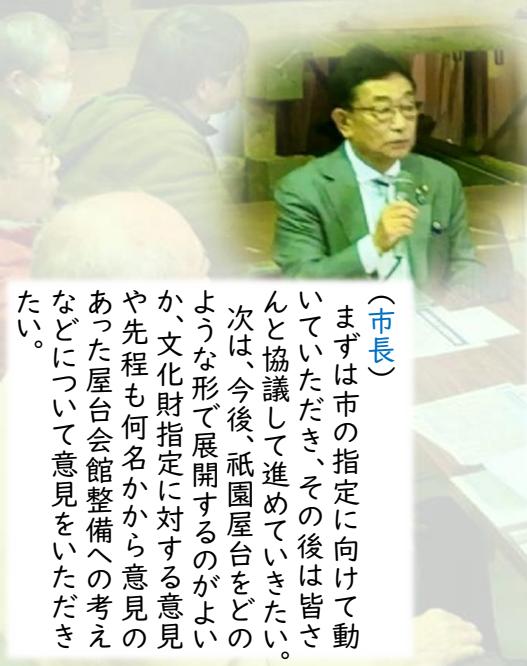


(意見)

屋台総揃えについては、開催場所の設定についても良かっただと思う。若衆にも責任を持たせてしっかりと話し合う中で、町会の人たちも徐々にまとまってきた。8月末から屋台を出し始めたときに、率先的に若衆が出てくれたおかげで、私たち年配者は安心して見守ることができた。町会を超えて若衆がよく頑張つただいたこともあります。屋台総揃えは大成功だったと思う。また、演芸についても素晴らしい、屋台と併せて常時開催できれば観光資源になり、桐生の素晴らしい財産になるとと思うため、屋台会館整備についても検討していただきたい。



「文化財指定の流れに対する質疑」



(事務局(文化財保護課))
現状では、祭りの道具として自由に使えるような指定にしたいという考え方から、市指定重要有形民俗文化財を想定しているが、今後保存会の皆さんと協議しながら進めていきたい。

(意見)
現在、市指定の有形文化財に向けた話をしているが、将来県として国の指定文化財へ格上げし、最終目標として個人的にはユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」への追加登録まで目指したいと考えているため、今後、ゴールを見据えた協議をしていくけれどと思う。



今後については、この素晴らしい屋台をどのように後世に残すのかが大きな課題になる。まずは、屋台の文化財指定までの流れについて説明させていただく。



桐生祇園祭屋台・鉾 文化財指定までの流れ

- 1 図面、写真等、歴史的な位置づけを示す資料を作成、まとめる
- 2 所有者からの申請
- 3 資料を作成して文化財調査委員会議に諮問
- 4 教育委員会議案提出
- 5 告示され、文化財指定

意見交換前に文化財保護課より、文化財指定までの流れなどについて説明
※資料参照

(意見)

文化財指定については、詳細な資料を基に判断されるものと思うが、屋台の組立については、単独で実施することは不可能であり、屋台会館については皆さんの意見同様に整備してほしいと思う。

今回、屋台を解体する際に、部材が大変傷んでいる箇所があつたため、その部分を削つて薬剤を塗り保管したが、文化財に指定されたとしても、保管されたままではまた虫などにやられて、部材が傷み、修復費用が多くかかってしまうため、その辺の財政的な支援について検討していただきたい。

(意見)
今回の屋台総揃えについて、本当に開催できるのか不安だったが、皆さんのお力のおかげで無事実現することができた。

また、各町会の頭や若い人たちが屋台に関心を持つていただいたことが一番良かったのではないかと思う。若い人たちが少しでも屋台のことで興味を持つて居る間に屋台会館ができるといいがたい。

開催前はどれくらいの方が来場していただけるか不安だったが、結果的に約一万人の方に来場していただき、開催して本当に良かったと思う。

また、文化財指定の関係では、これまで6丁目屋台の図面のみなかつたが、今回の屋台総揃えで屋台を組み立てたことにより、部材を出す順番なども詳細に書かれた図面ができ、全ての屋台の図面を揃えることができたため、文化財指定について進めることができるのでないかと思う。その後は目標は大きく掲げ、ユネスコの無形文化遺産の追加登録まで目指せると良い。

桐生祇園屋台の文化財指定について

(意見)

文化財指定に向けた流れの中で、保存会と市がそれぞれどのようなことをするのか、資料作成は全て保存会が担うのかなど、具体的な事項について説明していただきたい。

また、文化財に指定されたとしても屋台を組み立てるには莫大な費用がかかり、組み立ては非常に困難であることは示できるようになつたとして、どのよう運営するのか、各町会が輪番で受付などをするのか、または全て市で行うのかなど、より詳細なことも検討しなければならない。

(意見)

これまでの祇園祭の歴史の流れもあり、屋台総揃えで皆さんの機運が高まっているう

いて皆さんの考えをまとめ、今後一つの方向に進めていくべき良いと思う。

(意見)

これまで文化財指定と屋台会館整備について話題に上がったが、進むべき方向性について皆さんの考え方をまとめ、

今後一つの方向に進めていくべき良いと思う。

これまでの祇園祭の歴史の流れもあり、屋台総揃えで皆さんの機運が高まっているう

いて皆さんの考え方をまとめ、今後一つの方向に進めていくべき良いと思う。

（意見）屋台会館整備について、重要な話であり、屋台一台一台の修繕は非常に難しく、平成26年から文化庁の支援で修繕を8年間かけて一回り行い、修繕費で最も文化庁の支援を受けた3丁目屋台では約1400万円かかり、全体では2820万円の予算を組んで修繕したが、今後も從来同様に組み立て・解体を繰り返すことが果たして合理的か考える必要がある。

そのためには、屋台会館整理について、文化財指定と同時に進めていくことが一番良いと思う。屋台会館ができるれば、その建屋の中で修繕をするという方法もできるため、その点もみんなで知恵を出し合って考えていただきたい。

（意見）文化財指定について、有形か無形かの判断は難しいが、屋台については、組み立てる度に部材が破損してしまうため、組み立て・解体をする必要がない屋台会館を早期に整備して屋台を展示することができる、有効的な保存が可能になると思う。

桐生祇園屋台の文化財指定について



（意見）

やはり屋台を組み立てて解体することで、相当な経費と部材が損傷をしてしまうこともあるため、屋台会館の整備は先に進めていただけるとありがたい。

また、文化財指定については、祭りの道具として自由に使えるようにするということであるが、修繕なども可能な限り支援していただけるよう検討していただきたい。



（意見）

文化財指定までの作業量が把握できないため、現段階での判断は難しいが、屋台の部材がずっと蔵の中に保管されているようなことではさみしいので、安全に後世へ残していくという思いはある。



（意見）





(意見)

横山町には屋台はないが、文化財に指定されたとしても、文部材が蔵の中にしまつてあるだけだと何の意味がなく、毎年一基ずつでも組み立てた状況で皆さんの中に触れるようになつた方が良い。



(意見)

そのようにすることを、今回もあつたが、屋台の経年劣化も状況も見ることができ、修繕が必要な箇所も考えることができる。

長期的なことを考え、屋台を毎年出すなど、どのように皆さんに見ていただけるか、昔は娯楽として町の人々に楽しんでいただいていたため、今後はお祭りの時だけではなく、皆に見てもらえるような文化財にしていければ良いと思



(市長)

文化財指定や屋台会館の整備について熱い想いを聞かせていただいた。今後、文化財指定によるメリットなど、具体的で分かりやすい資料も示しながら、文化財指定に対して協議できるようにしたい。

今回の桐生八木節まつりは3日間で48万5千人の方々に訪れていただき、特に桐生祇園祭については、屋台総揃えも史上初だったが、4丁目が天王番で屋台・鉾・大幟の一斉展示についても史上初といふことで、今年は二つの史上初の大変素晴らしい取組ができました。

このことについては、正に文化財指定や屋台会館の整備に向けての追い風になるのではないかと考えており、市としても指定に向けて府内の横の連携を深め、早い段階で皆さんへ方向性を示したい。

また、屋台会館についても、その必要性は皆さん共通の認識だということを確認させていただいたが、場所や建設費用など、様々な課題を解決しなければならないため、今後、保存会の皆さんを始め、町会の皆さんの中意見も聞かせていただき、なるべく早い段階で結論を出していきたい。文化財の修理や保守管理に必要な経費については、国・県・市の補助金その他の財源などを有効的に活用し、祇園屋台を後世に継承できるよう情報提供や支援を行つていきたい。

桐生祇園屋台の文化財指定について

(市長)
桐生祇園屋台の後世への継承について、増子会長より総括をお願いしたい。

(増子会長)

文化財指定や屋台会館整備の検討については、早期に実施していただき、桐生市の貴重な財産を後世に伝えていきたい。

今回の屋台総揃えの開催で皆さんの決意は固まつたと思うため、若い人たちも含めてみんなで同じ方向に向かって進めていきたい。

屋台会館整備については、皆さん前向きな意見が出されたが、それ以外の組立費用の工面など、自分たちでもできることはしていかなければならぬと感じており、市は元より、国・県その他多くの方々からの協力を得ながら進められれば良い。

今回屋台総揃えを開催したことにより、その価値を内外に示すことができ、文化財指定への機運が高まったことは大変良かった。

(市長)

増子会長にまとめていただきたことが全てだと思っていいが、この祇園屋台の文化財指定については、桐生市の貴重な財産を後世に残すためにも必要であると思っており、皆さんから非常に心強い意見をいただいたため、スピード感を持って、指定に向けて取り組んでいきたい。

屋台は、織物の产地として栄えた当時の桐生市の経済力、それから文化度の高さを示すために大変貴重な歴史的・文化的資源だと思うため、しっかりと取り組んでいきた

